

2025年度 第3回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2026年1月27日(火)15時00分～18時15分
2. 場所 建築会館およびオンライン
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季
田川浩, 松井良太, 三井和也, 城戸將江 (記録)
(敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

03-00_2025年度第3回鋼構造座屈小委員会議事.docx
03-01_2025年度第2回鋼構造座屈小委員会議事録案.docx
03-02_1_2025年度第3回鋼構造運営委員会議事予定.pdf
03-02_2_2025年度第1,2回鋼構造座屈小委員会議事録案.pdf
03-02_3_2026鋼構造PD企画_時刻歴PD251119提出.pdf
03-03_25年度活動成果報告書式(構造・座屈小委員会).docx
03-04_Stability Problems_20260127
03-05-1_04章_梁材-本文-260120.docx
03-05-2_04章_梁材-解説-260120.docx

5. 議事内容

資料03-01

- ・資料03-01に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された. 梁に軸力が入力される場合については, 制振指針の構成を見て言及する場所を検討する.

資料03-02-1～3

- ・鋼構造運営委員会について金尾主査より説明がなされた. 次年度のパネルディスカッションの内容(中低層鋼構造建物の耐震設計における時刻歴応答解析の活用に向けて)が紹介された.

資料03-03

- ・今年度活動成果報告書について金尾主査より説明がなされた. 次年度の活動計画について, 構造設計者および研究者から広く意見を募る場を設けるとしているが, 原稿執筆に注力することとし, 進捗状況に応じて意見を募る方法などを検討する. 3年目は大会でPDを実施し意見を募る. 指針改定のポイントは変形能力評価式となるため, 塑性設計指針とのすり合わせも行う.
- ・また, 目標の達成度については「設計者の便に供するため式を集約し, 解説を加えることとした.」という文章を加えるほか, 微修正する.

資料03-04

- ・進捗状況について金尾主査より報告がなされた. 運営委員会査読は確認が遅れていたPrefaceも含め査読は終了した. 今後, 薛先生, 西村先生への査読回答にPrefaceなどを含めて送付する.
- ・松井委員より資料の説明および確認がなされた. 資料03-04内のファイルを執筆担当者は確認し, 気が付いた点があれば松井委員に1月末までに連絡すること. 記号(Notation)リストも作成しているのでそれも確認すること.

資料03-05-1～2

- ・梁材の原稿(案)について金尾主査より報告がなされた.
- ・本文と解説の章・節は統一させることとし, 解説のみにしか書かれていない場合は, その旨本文に記載する.
- ・実構造物の K_u , K_β の計算方法を示せるようにする. 木村委員と相談する.

- ・平均式と下限式，どちらを示すか議論がなされた．平均耐力式なら標準偏差なども必要ではないかといった意見が出された．参考文献を再度確認することとなった．
- ・変形性能評価式について，横座屈のみを対象とする場合と横座屈と局部座屈の連成を考慮した場合を同じ図には掲載しない．塑性率の式についても見直す．
- ・C4.5 梁材の性能評価事例については，宇佐美委員が執筆する．
- ・変断面梁について，拡張された場合の幅厚比の評価法，変断面梁の細長比について問題提起された．
- ・変断面梁と変断面柱を抜き出してまとめられるかは，三井委員が検討してみる．
- ・グラフなど図化することでかえって混乱をさせる場合もあることが分かったが，基本的には図化することでわかりやすくしていく．

そのほか

- ・議論する時間を確保するために，部材の担当者は執筆をできる限り早く原稿執筆を進めること．
- ・トラスの執筆担当できる企業の方がなかなか見つからない．

6. 次回小委員会予定

日時：2026年4月を予定

場所：ハイブリッド（東京）